

平成28年6月22日(水)
13:30~15:00
役場 3階301会議室

平成28年度 第1回川越町総合教育会議記録

1. 開会

2. 町長あいさつ

- ・委員の皆様方におかれましては平素は教育のためにご尽力賜りありがとうございます。
- ・6月の定例会におきまして少しでも英語に馴染んでいただきますよう補正予算を組みました。今後ともよろしくお願ひしたい。

3. 自己紹介

- ・駒田委員長 (K)、寺本委員 (T)、早川委員 (H)、布田委員 (N) より順次自己紹介

4. 協議事項

1) 総合教育会議の運営について.....資料1

- ・この会議自体は『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』に基づいた会議である。
随時、稲垣課長より『川越町総合教育会議の運営について』を説明。

1 目的 2 日程 3 構成員 4 協議・調整事項 5 その他

T: これは国の指針に則ってるのか?

稲垣: 大部分におきましては国の方針に則っている。

2) 教育基本方針の改訂について

・教育活動の重点取組について.....資料2

(教育基本方針パンフレット、川越町の園・学校における教育活動の重点取組)

長崎: 教育委員の皆さまにおかれましては先だつての教育委員会でもご説明させていただいたところではありますが、再度町長も交えご説明したい。

町の子どもは町で育てるという方針のもと、川越町教育基本方針を改訂いたしました。

まずは重点項目ということで、

1 学力の向上

CRT 到達度検査において子どもたちの伸びを客観的に把握する。平成28年の具体的な取組については配付済みの資料2を参考にしていきたい。

2 豊かな心の育成

近年深刻ないじめやネットでの誹謗中傷等、川越町としてはまずは丁寧な言葉遣いへの指導を共通軸にとりながら検証していきたい。具体的には学校での社会見学など学校行事を通じて、校外での子どもたちの挨拶の実施などでも評価していきたい。

3 自尊感情の育成

ここでは自分には良いところがあるという意識の高まりを目指している。現実には子どもたちにアンケートを取るとなかなか数値的には低い現状にあり、まずは毎日の学校での生活を中心に検証していきたい。

その他にも、外部講師を招いての心の教育も図っている。

4 特別支援教育の推進

発達障害を含み、特別な支援を必要としている子どもたちへの授業を公開している。子ど

もたちの実態を把握し特別支援教育スーパーチャージャーを招いての授業の充実を図っている。

5 不登校児童生徒への対応

不登校児童生徒の0人を目指して取り組んではいるが、なかなか現実には難しい状況にある。ポッケ（福祉）との連携も図りながら、地道に進めていきたい。

6 防災教育・防災対策の推進

幼稚園では避難訓練を毎月実施し、教職員の学校防災人材の育成も図っている（中学生と幼稚園児との共同避難訓練の実施等）

K： 今、問題なのは川越町の児童生徒が全国的に見て生活実態が低いということではないか。この会議の場では改めて教育基本方針の説明を行うのではなく、教育の現場を超えて行政も交えてトータルで話し合う必要があるのではないか。

町がまず単独で行うべきことは教育施設の整備である。一方で川越町の子どもたちの学力状況が全国に比べ低いのは、それだけ川越町の子どもたちの生活実態が大変だということではないか。もっと町あげて文化レベルを上げていくことが必要ではないか。

稲垣： 今回は町長も変わって新しくなったので改めて教育基本方針について説明させていただいた。

K： 川越町の生活実態は実際はどうか？

町長： そんなに他に比べて低いとは思ってはいないが。

K： もしそれがデマならもっと打ち壊していかなければならない。菰野町はうまく新聞社も取り込んで広報している。いいものはもっと前面に出していくべきである。

やはり子どもにとっては生活実態が大事なのではないか。今は行政も家庭に入り込めなくなっている実態にある。教員ももっと地域に入り込む必要があるのではないか。

N： 毎日きちんと登校している子どもたちが意外と学力が低いのはなぜか？高校に進学する子どもたちのほとんどが塾に通っている現状にある。塾に通わなくてもいいのではないか？それだけ格差があるということか？

H： いい環境やいい先生に恵まれてもやはり子どものやる気が大事なのではないか。

教育長： 小学校からの積み上げもあるので、長期的に見ていくことも必要であろう。川越町では学習支援員をかなり配置させて学校での学習の充実を図っている。

K： 児童館を無料開放することも必要ではないか。子どもの居場所を作るという意味で。もっと担当課長同士が話し合うべきでは？

課長： 児童館自体は無料であるが放課後児童クラブは有料である。

T： 昔から言う、厚労省と文科省との縦割り行政の歪ではないか。いつまでたっても福祉と教育が一緒になれない。やはり親たちが一番気にしているのは小学校に入学してからの子どもの帰宅時間である。父母のどちらかが仕事を辞めなければいけないのか？今の児童館の取り組みはとてもよい。

K： 町民から言えば、福祉がやろうが、教育がやろうが、どうでもいい話である。どのように利益を還元してくれるのかというのが問題である。月に一回の福祉との交流でいいのか？（ポッケ等）。町民のニーズを感じているのか？

T： 町民が真に望むことに還元してやってほしい。投資すべきはやはりこれからの時代を担う子どもたちではないか。子どものことは教育委員会だけではなく、福祉課や健康推進課で協働していくべきじゃないか。

H： 放課後児童クラブは何時までか？

N： 児童館利用者は17時まで、放課後児童クラブは最大で19時まで。

N： 特別支援教育について、通級指導に行っている（富田小）。川越の子どもたちが3カ月に1回では少なすぎるのではないか。もっと川越でも単独に通級指導できる学校が必要なので

はないか。今後は川越町でも通級学級も作ってほしい。

長崎： 四日市市における通級配置校は増えているので、毎週通えるお子さんもいるようになってきている。一週間の時間割の中にも組み込めるようになってきている。今では継続通級も認められるようになってきている。送り迎えについても、わずかではあるが保護者への補助がある。

N： 現実には特別支援学級の担任が指導をしているのが実情である。

K： 四日市市での通級学級はどういう組織でやっているのか？運営は分担金か？

長崎： 県が四日市市に加配職員として配置していることなので特に分担金は支払っていない。

K： 一方では、町単独でやるよりも分担金でやっていけるのなら別にいいのではないかとも考えられる。朝日も巻き込んで合同でやるなど。余り単独にこだわり過ぎるのもよくないと思う。現実には特別支援学級に入っても大変な子どももいるのは確か。

T： 支援、支援というが、まずは子ども本人の自立が前提である。先に支援（セーフティネット）ありきではだめ。

H： 昔の考え方からは随分保護者も変わってきている。受けられる支援はすべて受けようとする実態がある。

K： 川越町は随分手厚い教育支援をしている点は校長もはじめ、各教員も自覚はしているが、今ひとつかみ合っていないようにも見受けられる。

T： 学校の建設については今どうなっているのか？

町長： 前教育長の時から少しずつ進んでいる。福祉と教育とを融合した子育て支援について、新しい「課」なり「室」の検討を行うよう指示している。

K： 川越の文化力はまだまだ低いと考える。それが児童生徒の学力の低さに出てきているとも考えられる。もっと先を見通した投資を考えるべきである。

H： 北小学校を新しく移転させて、今の北小を中学校にする方法もあるのではないか。

K： あまり中学校のみにかかわってほしくない。もっと多角的に議論してほしい。相当長期的に施設計画は立てていかないといけない。もっと町議員も交えて議会とも相談してみてもどうか。

教育施設（複合施設も含めて）を今後どうしていくのか。当面これが教育委員会の重要課題である。

・あいさつ・声かけ運動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料3

早川： 5周年を迎えさらに力を入れていきたい。

K： 保育園児はよく挨拶するが、幼稚園児はなかなかしない印象がある。これもやはり家庭の問題か。朝日町は俳句活動も熱心と聞いた。川越も俳句を利用したあいさつ運動の展開も考えてみてはどうか。

5. その他

・町長： 今日の会議は町長着任後初めてであったが、こうした意見があること真摯に受け止め、できるできないは別としても真剣に取り組んでいきたいと考える。

以上